



CITY WATCHING

クローズアップ CLOSE UP

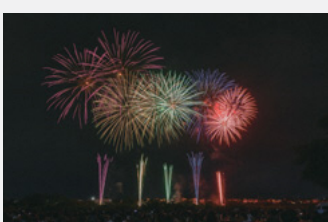
80年ぶりの復興歌舞伎

7月27日に前橋空襲と復興資料館開館記念・前橋歌舞伎舞踊公演を昌賢学園まえばしホールで上演。十代目松本幸四郎さんと八代目市川染五郎さんが橋弁慶を披露しました。80年前の戦災前橋復興舞踊大会の振り返りや、トークセッションも実施し、会場は熱気に包まれました。



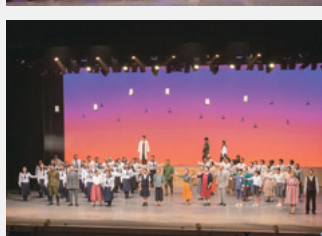
真夏の夜空に咲く花火

8月9日に前橋花火大会を開催。打ち上げ幅約800mの超ワイドスターメインや七色に変化する虹の花火など約1万5,000発の花火を打ち上げました。本市が舞台のアニメ「前橋ウィッチーズ」の放送を記念したプログラムでは主題歌などに合わせ花火が打ち上げられました。



前橋空襲を舞台で表現

8月2日・3日、昌賢学園まえばしホールで、市民ミュージカル「灰になった街」を上演しました。戦時下の前橋を生きた人々の姿を市民キャストが熱演。前橋空襲の悲劇を描きながらも、笑いや温かさが織り交ぜられた舞台に、会場は惜しみない拍手に包まれました。



いきいき
まえばし人

市国際交流員
ジャクソンレー・バニスター
23歳 住吉町二丁目

もっと前橋を知っていききたい



8月から新たに本市の国際交流員に就任したアメリカ出身のジャクソンさん。日本に訪れるのは今回で4回目だという。

「1・2回目に訪れたのは東京都や大阪府などの主要都市。そこで日本の文化の奥深さを知り、3回目は大阪府を出発点に、目的地を決めず約3カ月にわたって滞在。祭りで見こしに参加したり、神社に訪れたりして、日本がもっと好きになりました」とジャクソンさん。

配属先が決定するまで本市を知らず、インターネットで調べてから来日。住んでみて良いところだと実感したという。

「広瀬川と柳の風景が特に気に入る。前橋花火大会の美しい花火も印象的でした。今後は、赤城山へ登山やハイキングにも行ってみたいです」と話す。趣味は料理や筋トレ、読書など多岐にわたる。親子丼や牛丼などの日本ならではの料理や日本語の本を読むという。

「難しいことに挑戦することが好きです。日本語はオンラインコミュニティやアニメなどで学び、今では日本語の小説だけでなく古典にも挑戦しています」

「前橋市のいろいろなところに行ってみたいです。カツカレーが好きなので、お薦めの店があれば教えてほしいです」と語る。ジャクソンさんの本市での生活はスタートしたばかりだ。

「前橋市にいろいろなところに行ってみたいです。カツカレーが好きなので、お薦めの店があれば教えてほしいです」と語る。ジャクソンさんの本市での生活はスタートしたばかりだ。



「スローシテイ」は、効率やスピードが重視される「ファスト」な現代社会において、地域の知恵や文化、自然との共生を大切にしながら、ゆっくりとした暮らしの価値を次世代へとつないでいく取り組みです。

今回は、「前橋赤城マイマイの会」を紹介します。

同会は令和4年から大胡地区の空き古民家問題の解決を目指し、昌賢学園前橋国際大と東洋大の学生、地域住民と協力しながら、交流拠点づくりと畑づくりに取り組みました。6月28日には、みんなが育てたジャガイモの収穫を



【Vol. 12】前橋赤城マイマイの会

☎ 広報ブランド戦略課
☎ 027-898-6971



祝うジャガイモ祭りを開催。ニョッキ入りポトフやハッシュドポテトなどを調理し、参加者全員で味わいました。農作業を通じて、農産物が持つ本来の価値と販売時の価格とのギャップを実感する機会にもなりました。

イベントの企画・運営は昌賢学園前橋国際大の学生主体で実施し、地域の人たちの助言を受けながら進められました。これは、スローシテイが掲げる「次世代の学び」や「地域資源の持続的活用」に通じる取り組みです。

古民家・大胡ベースの畑ではナスやピーマン、枝豆などさまざまな野菜を育てており、収穫物は前橋国際大や市内のマルシェで販売しています。「食べる」だけでなく、「育てる」「作る」「販売する」体験を通じて、食育や地産地消の大切さ、そしてスローシテイの魅力を多くの人に伝え、活動の輪を広げていきます。

今後もさまざまな人々と協働しながら、「地域でうごき、地域をうごかす人になる」を motto に活動していきます。